

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'95 冬

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11

婦選会館内

〒151

振替 〇〇一九〇—一九一八九一

発行 一九九五年十二月二十三日

一九九五年の終に

梶谷 典子

一九九五年も終に近づきました。

波乱の多い一年でしたが、私たち女にとって強く記憶に残るのは、八月～九月に北京で開かれた第四回世界女性会議でしょう。

家庭科の男女共修をすすめる会にとっても、特記すべき年でした。

北京でのNGOフォーラムには、「会」として初めてひとつにまとまって参加することができました。

そして、秋号でお知らせしましたように、世話人会としては、「会」の活動を締めくくることを考え、来年四月六日の総会にはかろうとしています。これは「会」としての最大の重大事ですから、できるだけ多くの皆様のご意見をいただいた上で、総会に出す案をつくりたいと思っています。

解散することの是非、活動を締めくくるにあたってどんなことを考えるべきか、ご意見やご感想をお知らせください。

はがきでも、メモ書きでも結構ですが、原稿にまとめて下さる場合は、なるべく一行二十字で七十行（四百字詰原稿用紙三枚半）以内をお願いします。世話人に電話でお知らせくださっても結構です。

「会」の資料も整理しますので、残っているパンフレット等ができるだけ買っていたいただきたいと思っています。

●パンフレット（各三百円）

『技術・家庭科の男女共修をどうすすめるか』

『こうして拓いた共修への道・「家庭一般」を中心に』

『家庭科なぜ共修？どんな共修？』

もくじ

一九九五年の終に.....	(1)
NGO日本女性大会に向けての準備.....	(2)
NGO日本女性大会報告.....	(3)
「行動綱領」について.....	(5)
各地の集会から.....	
酒田地区教研・札幌母と女教師の会.....	(7)
いろいろな場で.....	(8)
家教連公開研究会報告.....	(8)
埼玉県教育研究会集會報告.....	(9)
都高教十月教研報告.....	(10)
日本家庭科教育学会.....	(10)
日本青年団協議会.....	(11)
北京会議その後―鳥取の反省―.....	(11)
「男女共同参画に画する世論調査」.....	(12)
家庭科共修の定着に向けて（中学）.....	(13)
世話人会報告.....	(14)
文部省婦人教育課を訪問.....	(14)

『スタート！新しい家庭科』

●イメージ一新―共修の家庭科教科書

（二百円）

ご希望の方は事務局へ郵便でお申し込み下さい。送料は「会」の方で負担します。

NGO日本女性大会 に向けての準備

国際婦人年連絡会（IWYLG）報告
和典典子

北京フォーラム以降、連絡会では休む間もなく次ぎの行動に取り掛かりました。

（一）九・二八↓「北京会議」の報告と日本大会準備

全体状況が、山口団長、世話人ほか、事務局の方々から経過をかねて報告がありました。（これは日本大会の資料に詳しいので省略）続いて、連絡会主催の三つのフォーラムとアジア太平洋友情テントのイベントの様子が、担当者から報告され、「会」が担当したワークショップについては、政策決定参加の大槻さん（有権者同盟）が、イベントの「ゆかたショウ」については、現地で司会した「会」の藤本さんが、報告しました（内容は会報秋号に掲載した記事とほぼ同じ）
日本大会については、日程と会場、プログラム、役割分担などが事務局より提案され「会」の和田は座長として起草委員を担当することになりました。

NGO日本女性大会報告

半田たつ子

色づき始めた大木の中の日比谷公会堂。ここは私達の二十年余の運動の感慨を誘う場所だ。十一月二十二日という日もまた……。その日、その場所に、熱い思いで千九百人の女が集った。国際婦人年連絡会が主催する「21世紀に向けてNGO日本女性大会」を成功させたくて、その熱気の中に自分をおきたくて。
◇来賓あいさつ

午前十時三〇分、幕が上がると、正面ステージには私達の願い「あらゆる分野への全面参画をめざそう 核兵器を廃絶し、平和な世界を創ろう」の文字。この日、半年前から約束済みの男女共同参画推進部長村山首相が参議院の会議のため欠席。その挨拶を古川内閣官房副長官が代読したのは残念だった。

しかし、北京の女性会議事務局局長、国連婦人の地位向上部長ガートランド・モンセラさん（タンザニアで国務大臣）が、国連会議開催中にもかかわらず、女性の問題が終わった

右の全体会に先だって、教育・マスメディア委員会でもフォーラム参加者の感想を交換しあいました。その中で「現地の受け入れ態勢に不満」「中国や韓国の参加不足が残念」「現代史を教える必要を痛感」「世界の女性たちのパワーに励まされた」「ワークショップの時間不足は展示で補えた」「開会式の集団行動は見事」「総理府との交流会よかった」などが出ました。

（二）沖縄の少女に対する米兵の暴行事件及びフランスの核実験に対する抗議
連絡会として抗議・要請を決定

（三）一〇・一↓起草委員会
世界女性会議の「行動綱領」及び「宣言」にてらして「連絡会」の「行動目標」を日本大会に提起するための提案づくりの打ち合わせを、各委員会の座長・事務局・世話人が集まって行いました。

（四）一〇・五↓総理府NGO部会 北京報告会
政府側の報告会がもたれ、外務省及び政府代表・顧問から資料提供と報告があり、連絡会の中村道子氏からは、NGO関係の動きについての解説がありました。

（五）第一次、分野別草案づくり
（三）（四）をうけて、教育・マスメディア

ところで駆けつけられたほか、カンボジア、キリバス、モリシヤ、モンゴル、ウガンダ、ジンバブエ、パキスタンなど十三か国の女性問題上級担当官（すべて女性）が、拍手とともに紹介された。

首相は「北京の会議は日本の男女共同参画型社会にはずみをつける重要な会議だった。政府は21世紀を展望する女性行政に関して審議会で鋭意検討中だが、行動綱領にもとづき、施策に反映したい。モンセラ氏の来日を歓迎し、日本の女性の行動を見ていただきたい」と挨拶。モンセラさんは力強くフレンドリーに、次のように述べた。

「多くの経験を持った人達の努力が結集して、北京の世界女性会議は大成功だった。日本から五千人も来てくれたことに感謝する。それは日本の女性がこの会議を大切に思ってくれたからだ。行動綱領が満場一致で採択されたが、これは女性にとって、希望と期待の集積であり、21世紀に向けての文書、私達みんなのものなのだ。

『革命は始まった。もう後戻りはない』

行動綱領の実施は政府の責任にかかっている。開発協力における日本の努力は際立っているが、日本女性の政治経済、労働市場への進出は遅れている。しかし、日本女性が世界

分野の行動目標草案（約四〇〇〇字を作成し「会」の世話人に意見を求めました。
（六）一〇・一一↓教育・マスメディア委員会検討
第一次草案について意見を聞き協議。

（七）一〇・一八↓全体会
各分野別報告案提出、意見を聞き手直し。

（八）最終原案づくり
手直し案に対して、三回にわたり修正の申し入れが届き、再三にわたり手直し。ようやく最終原案がまとまりました。

（九）一〇・三一↓全体会
分野別再提案及び基調報告、決議案の討議。そのあと「別姓」問題について学習会を行いました。

（一〇）一一・八↓全体会
大会ちらし・入場券の配布、各団体の動員目標、大会スローガンの協議、大会役割分担案の提案。

（一一）一一・一四↓全体会
特別決議、宣言案の協議、大会運営の協議。
（一二）一一・二二↓日比谷公会堂にて打ち合わせとリハーサル、持ち込み。

（一三）一一・二二↓大会当日
午前八時三〇分に役割担当者は集合して一〇時会場、一〇時半開演。

の色々な土地の女性と協力して、個人やグループで始めた協力が他の国を変えている。タンザニアでも、一日本女性が始めた『都会に出てきた少女のためシェルターを作る運動』は、大変役に立っている。

NGOは、国が行動綱領を実行するに当たって、監視したり働きかけたりすることが必要だ。私の国連での仕事はもうすぐ終わるが、その後は、行動綱領を広めるために役立ちたい。日本のNGOの皆さんも、北京で始まったこの仕事をもっと進めるために働いてもらいたい。ありがとう！」と。

◇基調報告とスライド構成

そのあと、中村紀伊、中村道子両世話人から、基調報告と第4回世界女性会議・NGOフォーラムにおける連絡会の活動報告。続いてスライド構成で「連帯して20年―世界の女性とともに」に移った。村山房枝、藤田たき、高橋展子氏など、今は遠い所に旅立たれた懐かしい方達も写し出され、改めて20年の過ぎ越し方に思いを馳せ、午前の部が終了。

◇NGO行動目標

午後は、この日のメインである「NGO行動目標」についての協議。これまで連絡会は一九七五年、八〇年、八五年と日本大会を開き、八八年には「民間行動計画」を作成し、

その実現のために活動を続けてきた。今、行動綱領の実現に向かって新たな歩みを進めようとしている世界の女達とともに、20年の到達点をふまえ、21世紀にむかって日本女性の「NGO行動目標」を明らかにしようというもの。同時にこの「行動目標」を、行動綱領に基づいて政府が作成するビジョンと新たな「国内行動計画」に取り入れることを求めている。これは第一目標であり、今後の進展の中で必要な課題を加え、充実させていくという。

内容は、政策決定参加、教育・マスメディア、労働、家族・福祉、平和・環境・開発、国連婦人開発基金（ユニフェム）の六分野にわかれ、中心に活動を進めてきた六人が、十年間の経過、これからの課題とともに、行動目標を提起した。詳細を記すスペースはないが、当日五百円で求めた冊子に全て記載されている。

教育・マスメディアでは、和田典子さんが「1教育・文化政策の基本に『女子差別撤廃条約』『子どもの権利条約』の理念を明記し、あらゆる教育・文化行政機構に男女平等教育のポストを特設する」ことを筆頭に、教育に関して17、マスメディアに関して7の行動目標を提起した。

◇フロアー発言

フロアーからは、予め要旨を書いて提出した中から23人が選ばれて、三分以内で発言するというすめ方。内容は、教育、マスメディア、女性に対する暴力、労働、アンペイドワーク（自営業、農村などの女性）、政策・意思決定の場への参画、基地問題、売買春、平和と続き、最後は沖縄の少女強姦事件に関する抗議行動の中心人物、高里鈴代さんだった。

◇しめくり

行動目標とともに、決議、宣言が採択された後、加盟五十二団体の名前と、活動を記したブラカードが右手から、北京で私達が集めた、世界の千百人を越える姉妹のメッセージ、その色とりどりのハンカチーフが左手から登場。女性の連帯を見事に表現して会場を盛り上げた。深尾須磨子さんの詩「いのちをこそ」の朗読、全員が「一人の手」を力いっぱい歌って、大会の幕が降りた。

◇家庭科共修については……

素晴らしい大会だった。だが、寂しくもあった。「連帯して二十年」のスライドは、家庭科の男女共修に一言も触れなかった。さらに、フロアー発言を申し入れた梶谷さん、中嶋さんには、場が与えられなかった。富山・石川・松山など遠方からの参加者を優先し、沖縄の

この大会の資料（A4版50ページ一部五百円）をご希望の方は国際婦人年連絡会にご連絡ください。

〒151東京都渋谷区代々木二二二-11-1

婦連会館内

☎〇三―三三七〇―〇二三八

発言者を二人にした配慮は納得できるが、男女差別の根っこにある性別役割分業を学校教育の場で突崩す制度をかちとった運動の成果は、決して過少評価すべきではない。この運動が実を結んだとはいえ、新たに生れた問題や今後の課題について、訴える場を与えられなかったのは、家庭科という一教科の問題、そして既に解決済みとされたからではないか。家庭科男女共修の本質を理解させ、普遍化する私達の努力は、まだ不足していたのかもしれない。また、女子用教科の家庭科へのアレルギー、家事・裁縫が意欲的な少女の可能性を狭めたことへの憤りが、女性から払拭されていなければならない。20年の運動ではまだ足りないのか。男女共修家庭科を学んだ人達が活躍する21世紀を待たなければならぬのか。そう思いつつ帰途についた。

「行動綱領」について

半田たつ子

次に「行動綱領」について考えてみたい。

1 「行動綱領」とは？

国連は、世界各地で起きている女性の人権侵害に対して、一九七五年を「国際婦人年」に設定し、翌七六年から八五年を「国連婦人の十年」として取組んできた。この間「差別撤廃条約」の批准という歴史的偉業も成し遂げた。また八五年には、十年間の評価を行い、さらに「西暦二〇〇〇年に向けてのナイロビ将来戦略」として具体的なガイドラインを作った。この会議から十年目にあたる今年、現在までの成果を点検し、目前に迫った二一世紀に向けて、取組むべき課題を話し合い、具体的な「行動綱領」を採択するために、北京女性会議を開催した。政府間会議（九月四日～十五日）には、政府代表五千七百人、認証を受けたNGO代表四千人、報道関係者三千数

百人、計一万三千人の他、五九の国連機関代表も参加した。

これに先立って開催されたNGOフォーラム（八月三〇日～九月八日）には、海外から二万七千人近く、中国国内から五千人、合せて三万人を越す民間女性が参加し、両会議合せて四万人以上の参加者があり、国連史上最大の規模の会議となった。

一八九ヶ国とEU（欧州連合）の政府代表団によって採択された「行動綱領」には、特に重要な十二の問題領域について具体的な目標や取るべき行動が示されている。即ち、A女性と貧困、B女性の教育と訓練、C女性と健康、D女性に対する暴力、E女性と武力紛争、F女性と経済、G権力及び意思決定における女性、H女性の地位向上のための制度的な仕組み、I女性の人権、J女性とメディア、K女性と環境、L少女、である。

三年の準備過程を経て、今年三月ニューヨークでの婦人の地位委員会で作製した行動綱領草案は、意見不一致を現すカッコが四百もついていた。貧困の原因である債務問題など先進国中心の経済開発のあり方や、各国の文化伝統尊重や性的権利など、女性の人権をめぐって北京会議でも対立したが、九月一五日前午四時半過ぎ合意に達し、三百八十項目以上に

のぼる膨大な「行動綱領」が採択。未合意のカッコは、すべて取り外された（但し採択後、五〇ヶ国近くが留保）。

平行して中国政府の強い要望で北京宣言が起草されたが、留保なしで採択するため、行動綱領での対立点を避けたなまぬるい内容となった。失望したNGOの女性達が、NGO宣言をまとめた。これには先進国の利益になり、途上国の女性達を貧困化する自由史上経済システムの改革や、軍縮と軍事予算削減などを強く求めている。アジア太平洋地域声明も発表され、核実験中止、慰安婦問題解決、人身売買廃絶、移住労働者や先住民女性の権利保護など、地域の具体的な問題で政府の対応を要求している。いずれにせよ、女性の問題は、環境、人口、人権、社会開発等世界を挙げて解決すべき問題に直結し、これらの問題を解決しようとすれば必ず女性問題に直面することを確認し合うことができた。

各国は、採択された「行動綱領」にもとずき、九六年末までに国内行動計画を作成しなければならぬ。日本では、昨年六月発足した「男女共同参画審議会」が、総理大臣の諮問を受けて、二一世紀に向けた男女共同社会の総合的ビジョンを検討しているが、「行動綱領」を視野に入れて答申を出し、これを受

けて政府は「国内行動計画」を九六年末までに策定することになる。この二十年余り、エンパワーメントしてきた女性達が、「行動綱領」を政府にどう実行させるのか、その真価が問われることになるだろう。

2 「行動綱領」における「教育」は？

日本では「非識字」の問題は少なく、制度的には男女平等が達成されたかに思われていて、一般にこの領域に対する関心は薄いようだ。総理府仮訳の「行動綱領案」によって、私達の活動に関係深い箇所を見てみよう。

「B教育機会への不平等なアクセス及び不十分な教育機会」の冒頭に「71教育は基本的人権であり、完全な平等、開発及び平和という目標の達成にとって不可欠な手段である。非差別的な教育は少年と少女の双方に利益をもたらし、したがって結局は男女のより平等な関係に寄与する（以下略）」と述べ、73、76、77で、ジェンダーによって偏向した教育・教材を改めるべきことを力説し、81を「政府及その他の行為者は、あらゆる政策及び計画の中心にジェンダーの視点を据える、積極的で目に見える政策を促進すべきである」と結ぶ。

「戦略目標4、非差別的な教育及び訓練を開発すること」の85(b)の案ではカッコに入っていた「また、少年が自らの家庭内ニーズの処理、家庭への責任及び世話を要する者への介護責任の分担に必要な技術を身に着けるように保証するために、特に教育基準を開発すること」のカッコは外された。

その他、世界で非識字者は九億六千万人もおり、その三分の二は女性。女であるために学校に行けず、家事の都合で退学させられ、字を知らないため、よい職にもつきにくい。二〇〇〇年までに女性の非識字を根絶すること。初等、中等教育のジェンダー格差の解消。科学、技術教育の改善。公教育の中にあるリプロダクティブ・ヘルス教育への法律上、規則上の障害を排除しようとした。

また「L少女に対する持続的な差別及び人権の侵害。少女の生存、保護及び開発」でも「20カリキュラム、教材及び教育慣行を含む、ジェンダーに関して偏向した教育課程、教師の態度及び教室の相互影響が、男女間の既存の不平等を強化している」と述べ、ジェンダーに関するしつこい固定観念を打ち破るために働く必要を強調している(202)。

「347行動綱領の戦略目標を実施する最大の責任は政府にある」とうたい、「33国連総会は、

一九九六年、九八年、二〇〇〇年に、行動綱領の実施状況を見直すべきである」とした行動綱領。私達がこれを差別と闘う「強力な武器」として生かし得るか。そこに、北京以後の女性の真価が問われることになるのだ。もはや後戻りはあり得ない。

「行動綱領」に関心を持ち、これをよく読んでみよう。あなたはきっと「世界の友と手を携えて女性の問題の解決を図る。そのことによって、国際社会の抱える困難な問題の解決を図るべき現在である」ことを確信するだろう。家庭科を女子のみが必修教科として学ぶ教育課程に「ウ！」と声を挙げた私達の道はここに通じていたことを。

アジア女性資料センター訳の「行動綱領」は一部千円で市販されています。お問合わせは〒150渋谷区桜ヶ丘一四一〇 渋谷コープ三一 〇三三三七八〇 五二四五 アジア女性資料センターへ。政府訳のものもぼつぼつ配布が始まるはず。こちらの問合わせは〒100千代田区永田町一六一一 〇三三三五八一 総理府男女共同参画室国際担当へ。

各地の集会から

山形県酒田地区教研 札幌、母と女教師の会から

中嶋里美

山形県・酒田地区教研

十月十八、十九の両日山形県酒田地区支部の教研集会が行われ、私は「これからの男女平等教育」についての講演をした。

教研のメインの講演に「男女平等教育」を取り上げている所はまだない。教職員組合であつてもほとんど委員長は男性であり、執行委員も圧倒的に男性であるからだ。

酒田地区支部の教研委員の中に昨年大場広子さんが入り、教研の講師選定の段階から発言してくれていたことなどが、新しい道を開くことになった。

酒田地区支部でも役員は男性の比率が多く役員構成が男女平等になるようにと冒頭に要望した。

話しの内容は私が高校教師時代、校務分掌の一つに「男女平等教育係」を提案したことや北京会議で語られた男女平等について述べ

男女の自立、とりわけ男性の自立の大切さを強調した。又、教師も生徒も個性を伸ばす為には「時間的なゆとり」が必要なので、おそく迄学校に残っている教師を「熱心な教師」と評価すべきではないこともつけ加えた。教師が学校にいる時間も東京等に比べると二、三時間長い現状のようであった。

講演後の質疑では男女混合名簿の取組み方に関するものが多かったが「男が変わるためにはどうすべきか」の質問も出た。「命にかかわることが大切」と答えた。

女子教育分科会

分科会では「女子教育」と「家庭科教育」の二つに参加した。「女子教育」分科会では混合名簿に対する教職員や生徒へのアンケート結果が発表されていたが、工業高校に勤務する男性教師が小学校の女性教師達が何故取組まないのかと鋭く迫る場面もあって、緊張した空気が張りつめていた。これ迄「女子教育」分科会に参加する男性教師達はほとんど男女平等に反対し、消耗することが多かったの、こうした男性教師の発言は新鮮であった。

家庭科教育分科会

「家庭科教育」分科会では、二つのレポートが出されていたが、酒田西高分会の大場さんは、昨年視察したスウェーデンの高齢者福

祉を取上げた。同時に共学の始った今、肩の力を抜いて授業をしようとしても、いつも誰かに見られているという緊張感がつきまとうと報告していた。

もう一つは、同じく酒田西高の金子さんの被服に関するものであったが、生徒に対する「制服へのアンケート」が興味をひいた。

「現状のままでよい」が「反対」より七％位多いが、混合名簿と同じで廃止されれば抵抗なくすすんでいくであろう。誰がこうした運動のすすめ手になるのが今問われている。

もう一つの大きな問題は共修の今後である。週休二日制の中で、四単位の家庭科を削ろうとする現場の動き等がそれだ。そしてこの問題は根強い受難信仰と結びついている。この体質をどう崩すかがもう一つの山である。

札幌・母と女教師の会

十月二日は札幌の母と女教師の会で話をしたが、この会は長年にわたり地道な活動を続けてきている。これ迄の取組みを社会全体にいかしていく為には政策決定の場に女性が入っていくことが何より大切と述べた。

私自身も昨年のスウェーデン視察、今年の北京会議を通じて、これ迄女性達が主張してきたことを社会のメインテーマにするならば国の意志決定の場に出るしかないと思っている。

いろいろな場で

(山形・東京)

半田たつ子

山形・通信教育生の学習会

NGO日本女性大会の直前、山形で日本女子大の通信教育生の学習会に招かれた。その日の午前中に卒業生が同窓会を開き、午後加わってくれた。交流の中で、短大教授をリタイル後、非常勤で教えている同県女性の大御所のな人が、従軍慰安婦問題に関して「私の夫は産婦人科医であり、当時私達は中国にいたので実際にこの目で見て知っているが、慰安婦の希望者は、日本人を含め列をなした。自分から望みながら、今になって騒ぎ立てるのはおかしい」と言った。私が語ったことを書くスペースはないが、内閣が変わることに「失言」をして更迭される男達と同じ精神構造を、私の「先輩」に見て、驚き呆れ、悲しく悔しく情けなかった。その人は「ただ私は実態を知っているから、事実を話しただけです」と、また言った。

府中市・女性問題講座

その少し前、東京・府中市の女性問題講座

で家庭科を二回連続取上げた。一回目が終わった時の感想に「私はずっと女子校だったので、男女共修問題はよそごとで、ピンとこない」というのがあった。このことは、次の回で取上げようと思っているが、自分の世界しか見えず、他の痛みや極端に鈍感で、現代の潮流にも無関心、今噴出している問題と自分を結んで考えることをしない人がふえているように思う。年齢にも、性別にも関係なく。

日本生活協同組合連合会女性評議会

日本女性大会の前日は、三期目を勤めている日本生活協同組合連合会女性評議会があった。地域組合員の90%は女性、しかし役員の97%は男性という、組合員百七十万を越すこの組織で、女性評議会は実態調査・意識調査を重ね、提言を出し、さしもの大組織も身じろぎを始めている。連絡会の五十二団体の一つとして、議長と女性役員が北京にも言った。この日は議長のスライドを使つてのNGO参加報告と、私の行動綱領のレクチュアがあった。ほとんどの出席者が、日比谷の大会にも参加し、議長の立川さんは、フロアーから意見を述べ、担当職員の長谷部さんは、決議案を堂々と読み上げた。

府中・山形と憂鬱だった私の心は、すこし晴れた。

家教連公開研究会報告

(埼玉)

柴田栄子

十一月二十五日浦和の教育会館で四十名程度の参加者のもと開かれた。討議の柱は「こども、青年が学習の主体者となる授業づくり……生活認識を大事にする家庭科の実践」である。初めに斎藤弘子さんからテーマの趣旨説明。

家教連はこれまで、心身の発達を保障するための学習内容の追及に力を入れてきたが、学ぶ側の意欲を引き出し、こどもや青年の学びたい要求からスタートしなければ、生き生きとした学習状況は作れないのではないかと提議の後、実践報告と討論に入った。

◇

東京、狛江高校の吉村敦子さんの実践は、「缶ジュースの向こうに見えるもの……経済学、栄養学、環境学の総合学習を通して社会のシステムを考える」。「食」分野を基本に据えながら授業を組み立てていく。ミニ新聞作り、好きな物を作る実習、栄養点検、食物費、高校生のこずかい、大学生活に必要な資金、実習で出たごみの追及、家庭や地域のご

九五年度埼玉県教育研究集会報告

埼玉県立狭山清陵高校 浅村和子

会場は、県の単位制の強制導入を白紙撤回させた自信と喜びの余韻が残っているような所沢高校。

家庭科教育分科会の討議の柱は、

1. 命とくらしの破壊をどうとらえるか
2. 地域に根ざした実践
3. 家庭科教育で何をどう教えるのか
4. 真の男女共学を進めるために

小学四年、中学一本、高校一本のレポートを中心に語り合い、なごやかに時間一杯検討して充実した研究会であったといえよう。参加者十一名。

高校は、服装の歴史からショートパンツの製作までの被服分野の内容を、男女平等教育の視点で組み立て検討した実践報告。中学は「日本人が食べてきたもの……鰯、さば」の学習を通して、日本食のよさや食料事情、技術を身につけることをねらった実践であった。

み処理について調査、文化祭で発表という流れ。この流れを軸にして、生徒の持つ生活実感や関心事を取り上げている。それを可能にするのは指導者の問題意識、地域との関わり。の豊かさが根底にある事を確認。高校の家庭科は主権者としての自覚を持たせることが大切ではないか。そう教師が方向づけることこそ、生徒の要求をもとにした学習といえるのではないかと意見が出されたが、今後の課題であろう。

◇

田無市の小学校の沢田悦子さんは、「子どもの生活に位置づく家庭科をめざして」五、六年の一連の実践を報告。学習課題に対して知っていること、知りたいことを書かせる。教え込むことを限り、子どもが知りたいことを自分で取り組むのを援助することになっている。これだけの事を身に付けさせようという教師側の発想を捨て、学び方を学ばせているといえよう。自分の生活からスタートして自分の気づきから学習している事が新学力観とは違う、と提言。このテーマは、沢田先生の言われるようにまず教師の自己変革、今までの教師像を捨てて考える所から始まるのではないか、と私は思った。

全国教研へ送ることになったのは、川口市の小学五年でごみ問題に取り組んだ「少年少女ごみ探検隊」の報告である。

教室のごみ調べ→ごみ集め→ごみの行方→リサイクルはなぜ必要か→地球にやさしい暮らし→まとめと十時間をかけている。

川口市はごみ処理先進市で有名である。その環境部制作のビデオ「危機回避への旅立ち」を最後に見せて考えさせている。その中で、ごみは出した者だけの責任ではなく、売ったものや作った者もその処理の責任をはたしているという海外の取組みに子どもたちは感動し、行政に対する要求を手紙に書いている。

この学習内容は「家庭科だより」を通して家庭にも届き、家庭からも支持が得られたという。

みじかな問題をまず体を使って取り組ませ、ごみ拾いや分別の大切さなど、奉仕活動や道徳的まとめで終わらせず、社会に働き掛ける形で締め括っていることに感動。新しい家庭科の創造のためには、まずはこんな社会的な視点とカリキュラムの自主編成が大切な事を確認した。

都高校十月教研報告

都立東大和高校 樋口 照子

〈次期学習指導要領をめぐる情勢〉

家庭科部会では、はじめに次期学習指導要領をめぐる情勢について話し合いました。九六年には教育課程審議会が開かれ、次期教育課程にむけての日程が検討されます。財界からの提言では、教科について、現行にこだわらず、基礎基本は、「言語能力」と「論理的思考力」を高めるための教科に絞るということも考えているようです。このような状況の中で男女必修となった家庭科を根づかせるための様々な取組みが、一層重要となることを確認しました。

〈実践レポートをもとに〉

次に、実践レポートをもとに学習し合いました。

一つ目は、大泉高校の斉藤弘子さんの「生徒の生活認識を大切にした食物学習への試み」です。食生活にかかわる個人研究で、「仮説をたて、自問自答し、それを検証する」こと

を要求しています。

レポート二つ目は、上野高校、高月佳子さんの「創造をめざした総合的な家庭科の試み」で、地球環境と人間の生とのかかわりから、人間の生命の源、食生活の学習へと入ってゆきます。さらに食生活の様々な問題は、社会問題でもあること、最終的には、消費者と企業、行政とのかかわりで捉えることを根底におきつつ、おしつけではなく、生徒自身が気づき、自分で変えていこうというように、授業を展開してゆきます。

三つ目は、園芸高校の鈴木あやさんの「共に生きる社会をめざして―私たちの街の条件整備」で、家族分野の実践です。はじめに、自分をみつめる―をテーマにして、身の回りのことを見つめ直すことからはじめ、自分が他の人々と共に生きる社会へと視野を広げさせてゆきます。生徒による、通学路の車イス体験ビデオを教材としたことで、生徒の関心を高め、車イス歩行の困難な現実への認識が一層深まったようです。「家族」の学習の中で、「個人」を中心にした発想が新鮮でした。以上三本の実践からは、男女共に、家庭科から多くのことを学んでいるという手ごたえが感じられました。

日本家庭科教育学会 平成7年度例会と 新構想研究委員会

(東京) 荒井紀子

〈例会〉

十一月十八日に日本家庭科教育学会本年度例会が共立女子大学で開催され、研究発表と講演会『認知発達と家庭科教育』（東京学芸大学、神宮尚子氏）が行なわれました。研究発表は中高校生の生活設計に関わる学習題材開発や中学生対象の水に関わる総合授業、消費者関連学習の融合題材など男女共修の授業研究に関わるものが、九本中五本と最も多くみられました。

ちなみに七月に福島で開催された第三八回大会（シンポジウムについては会報九五年秋号で報告あり）では、高校家庭科の共修実施にともなう教師の意識・取り組みや高校生の意識など高校現場の実態と課題についての研究発表（六九本中七本）や、生徒の学習意欲を喚起する高校家庭科の授業研究（東北各七県の中・高・大学のグループ研究）など、男女共修二年目という時期を反映して、共修の

実態やそれによる生徒の意識の変化を検討したり、男女が学ぶ授業の内容や学習方法の充実に関わる研究が多くみられました。

〈新構想研究委員会〉

学会では、新構想研究委員会（平成五年十一月発足）を中心に「二十一世紀の拓かれた家庭生活を創る小・中・高等学校家庭科の教育課程の新構想研究」が進められています。その一環として、全都道府県の基本調査や小・中・高・大学の教師を対象とした家庭科の教育内容・方法と履修段階に関わるアンケート調査、また共修を体験した高校生徒および家庭科教師の感想文の収集などが本年秋に実施されました。結果のまとめについてはいずれ印刷される予定です。

日本青年団協議会 レディースフォーラム

1995/9/22〜24

(東京) 和田典子

「女の想い、男の想い―別の角度から見れば」を基調に開催された、第24回、今秋の男女青年参加の集会には、各道府県から約200名が参加して、2泊3日間の車座での濃く厚い討議がもたれました。私は「おんな

のライフプランを考える」という7つの分科会の一つに参加しましたが、以下はそのなかで得た主な感想と報告です。

一つは、男性の参加が過半数、未婚者にまじって既婚者も出席していたこと、前近代的な地域のしかも農業や零細・下請け企業で働く人や役場・農協の職員など、地域社会を支える主な役割を担う青年だけに、問題解決の問いかけも重く深刻であったことでした。

二つめは、以上と重なって恋愛・結婚などについても、ジェンダーの壁があつく、未来への見通しと、その手掛かりを求める要求も男女とも都市にない真剣さがありました。

三日間の討議と地域・男女をこえての交流は問題への認識を進めたことは確かでした。

北京会議その後

―鳥取での反応―

本橋靖子

鳥取県全体のことは把握しない。私の周辺で拾ったことの報告である。

◇総理府主催の中国、四国、九州地区参画地域推進会議が9月31日と10月1日の二日間鳥

取市で行われ、野坂官房長官も出席、千人が参加した。

◇鳥取市で9月20〜26日に行われた恒例の写真展に「北京だより―世界女性会議―」として写真24枚を編集して出した。ローカル日本海新聞で写真展が紹介され、「北京だより」を見ている写真と名前入りの紹介文も載った。新聞を読んで見にくる人や電話で聞いてくる人があった。よくマスコミが注目したことよと思った。遅れていた鳥取も十年前のナイロビより関心が広がっているなど思った。市の女性問題推進会議の委員の方が新聞を見て、女性の集会（後述）で「北京会議」の報告をするようにと頼みにみえた。思いがけない展開に驚いた。

◇次に昭和元年（大正十五年）、二年生まれの女性たちの「北京会議」の報告に対する反応を紹介しよう。

十月十二日、県立鳥取高女の同窓会古稀の祝いと稱して一七〇名余りあつまった。会の後半盛上った頃突然友人の指名で「北京会議にいきんざつた話をきかせて」と声がかつたのである。話をきいている友人たちの中には、主婦業でパートに出ていた人が何人もい

る。パートの女性就労全国第二位の鳥取県である。何年も前に定年退職した夫は年金をもらっても、年金の出ない彼女たち。そして今はマゴ、マゴと孫の話に顔をほころばす人たちが「男は社会、女は家庭」と育てられ、生きぬいてきた彼女たちだ。仕事を持った人は小学校の先生になった人が多い（就労者の80%位）。子育ても保育所が少ない時代、職場と、家庭と、子育てと、夫の世話とこなした彼女たち。ビールで賑やかな会場も、静かになって話をよくきいて下さった。「話がきけてよかった」と明るくいわれて別れた。

さて夜である。大阪、鎌倉、から来た人から泊っての声がかゝり、鳥取組も数名泊って一夜を話そうということになった。話は「北京会議」の続き、吾身に火がついたという感じで、ジェンダーギャップの時代を生きた友の苦勞諸話。今も「女は家庭」の続きで倒れた夫の介護をしている話、鳥取組はただただ聞き役。夜中まで話し床についた。突然大声で「あー今日はよかったあー」、歌を忘れたカナリヤが思いっきりしゃべれた。うれしい。今日はどんな夢をみるだろう！と大阪の、姑につかえ、五人の兄夫妻（兄弟会社を営む）につかえ、夫（六男）につかえた、「女は家庭」の彼女が言った。朝になって、

「夢はみんなだ、今日も目覚めたらうれしい！」
「北京会議の話を書いてこれからは、いい時代がくるとおもった」と。このIさんの言葉が実感は伝わって私も感動してしまった。

◇十二月二日には鳥取市主催の「女性問題研究会―北京会議をふり返って―」が行われた。パネルディスカッションに、五名のパネラーの一人として参加した。

「男女共同参画に関する世論調査」から

梶谷 典子

七月に実施、十月十四日に発表された総理府によるこの調査は、以前「女性に関する世論調査」「男女平等に関する世論調査」として行われたのとはほぼ同じもので、全国の二十才以上の五千人を対象として行われました。調査結果の中で目を引くのは「男女の地位の平等感」についての質問で、家庭や職場など他の分野では「男性が優遇されている」という答えが多いのに対し、学校教育の場では六五・二%の人が平等と答えていることです。皆さんはどうお思いでしょうか。

鳥取では二〇〇〇年に向けての取組みはまだ具体的な課題にならず、前段階であり、民間団体は少く、総理府からおりて来たことを女性問題推進会議でやっている。行政と民間とミックス型で、今ある団体でネットワークをつくり、連帯の会議をしようと言った。ジェンダーギャップは強いから、現実の問題は多い。具体的な課題をはっきりさせて取り組んで行きたい。

	同意する方	同意しない方	どちらともいえない
女性	二二・三%	五三・九%	二二・八%
男性	三三・九%	四〇・二%	二六・三%
合計	二六・八%	四八・〇%	二四・三%

また、「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めて行く必要がある」という考え方については、「同意する方」と答えた人が七四・三%（女性七七・八%と男性六九・八%）と断然多数、「同意しない方」という答えは六・七%（女性五・二% 男性八・八%）、「どちらともいえない」が一五・七%（女性一三・六% 男性一八・五%）でした。

家庭科共修の定着に向けて

～秋号に続いて中学校の現状は～

磯部幸江

高校で共修がスタートして、家庭科教員は授業は女子も男子も意欲的だし、男女で学ぶ事があたり前で行っていてもおもしろいと言われる。そんな中で、生徒の生活体験は様々だ

＜表①＞年間計画（◎印が家庭科）

1年（週2時間）	家庭生活◎	木材加工
2年（週2時間）	電気	食物◎
3年（週3時間）	被服◎ 情報処理	保育◎ 金属加工

＜表②＞第3学年の授業時数（昭和63年度1995・1月調査）

70時間（週2時間）	1校
87.5時間（週2.5時間）	2校
105時間（週3時間）	20校

からある程度はやむを得ないとしても学んできた事できる事の差が大きいのは驚いていという声を何度も聞かされた。

それは、中学校の現場の混乱でもある。中学三年生での領域選択の違い、それにかかわっての別学での授業、授業時数の減少など、教師裁量によって生徒の学び方が異なるのである。学校で学ぶことはたかが知れていると思われらるが、考え方や技能修得のきつかけを体験しているか否かは、生徒たちの学びには大きく関係すると思う。

○私の場合（一般的な例）

私は、学級数十四の中学校の家庭科教員である。男性の技術科教員が一名。共学で授業をするという合意は得ている。生徒は、三年間で表①のような内容を学習する。指導要領による領域名で記入してあるが、「住居」の内容を入れるなどして自分なりに内容を考えている。生徒は、一・二年生では途中で先生が交替となる。やる内容の専門が違うからと説明するのだがいつもむなしく思う。三年生では、技術と家庭科を並行して行うので一教科増えたようになる。評価は、毎学期二人の教員で時間をかけて話し合いつけている。時間のとり方など工夫が必要だが、共学で授業をしていく事に障害はない。クラス単位

で学習することのメリットの方が大きい。

○それでもなぜ別学

同じ市内の学校で三年生で別学をしている家庭科教員は言う。

「男女で学ぶという理念もよくわかる。でも私は被服をきちんとやりたい。男子によい教材がない。女子のみでもしっかりとした作品を作らせたい。」多少騒々しくても男子だって製作はできるという私は平行線。

「時間が足りなくて専門的なことが何もできないよ。男子だけでももっといろいろやりたいよ。」と言う技術科教員。

技術と家庭が合科として存在しているという厚い壁がたちはだかる――。

○何から始めるか

学習指導要領の改訂の度に授業時数が削減され、今回も三年生では週二・三時間となっているため、週二時間に減らす学校が出てきた。（表②）技術も家庭も学ばせるために、家庭科に充てる時数が半減した現状の中で、週時数を減らしてはならない。教員構成や、学校五日制の実施などで時数削減を言われても、週三時間確保をがんばってほしい。

また、家庭科の内容についても、中学も高校も共修でこんなことができるという声をもっと上げていきたい。

世話人会報告

（十月二十一日）

○NGO日本女性大会（11/22）準備

出席予定者・和田・。梶谷・青山・磯部・榎本・八島・半田・。中嶋・藤本・大平・。印フロアー発言希望） 役割分担・図書販売・青山・大平・ブラカード・磯部

○資料整理について

第1回（10/7）済。婦選会館。第2回会報をまとめてセット造りをする（12/16）同会館4F1時～5時。

○会報冬号の内容、執筆者について検討。

○文部省婦人教育課長（坂東久美子氏）に面会。（中嶋・梶谷）

○総理府発表（10/14）「男女共同参画に関する世論調査について」の内容紹介（梶谷）

○東京ウイメンズブラザ神宮前にオープン

○アイリス交流会の報告（和田）

○会計監査の依頼について

（大平初校）

（十一月十八日）

○十一月二十二日NGO日本女性大会の仕事の確認

大会には30名目標に会員に呼びかけ、世話

人のほかに藤本さん、福留さん、鈴木さんが参加予定。

ブラカードのアピール文は「家庭科共修で日本が変わる！」

教育・マスメディアの行動目標について和田さんが提案、記録は半田さん、夜のモンゲラさんとの懇親会出席は中嶋さん。

フロアーからの提言のための話し合いをしました。

○中学校技術・家庭の3年生での別学対策の

文部省婦人教育課を訪問

梶谷典子

「会」としての行動ではありませんが、十月十二日、中嶋世話人と二人で文部省婦人教育課を訪問、課長の坂東久美子さん、女性政策調整官の鈴木優子さんとお話することができました。婦人教育課は学校教育には直接かわりませんが、以前から女の問題についての文部省の窓口でしたし、特に去年十月に女性政策調整官がおかれ、男女共同参画型社会形成に関する仕事を担当することになっていきます。

女性政策調整官がおかれて一年になります

ための話し合いを磯部さんのこれまでの調査をもとに行いました。調査にご協力いただいた方にご意見を伺い、中学校の先生方が読む雑誌に投稿することになりました。

○来春四月六日の集会の準備について。

年表は榎本さんが一月の世話人会までにまとめ、運動のきっかけについては、和田さん、半田さん、梶谷さんの4人で話し合い形式で進めることになりました。

（青山和世）

が、まだはつきりした成果は上っていないようです。各部局との定期的な情報交換のようなことも行われていないということです。

婦人教育課としては、男女共同参画型社会形成に関する情報を省内に流す努力はしており、学校教育との連携ももっと考えたいとのこと。特に男性への教育を重要視しようという意向も見えて、少し心強く感じました。

「教育現場等の実態について情報がほしい」という話もありました。すぐ目に見える成果はなくても、交互に情報がよく流れることは必要でしょう。男女平等に関して、困った事例、よい事例などありましたらおしらせ下さい。

文部省婦人教育課は〒100千代田区霞が関三二二二 ☎〇三―三五八一―四二二―（代）